

今より一歩、  
心地よい暮らしを考える。

7町エリア限定配布

ニュートラル  
Neutral  
News

No.06

## 冬でもガスストーブが不要に マンションの内窓導入事例

となりの

ニュートラル

となりのニュートラルは、ご近所のあの人が取り組んでいる、暮らしを豊かに心地よくし、環境にもやさしい工夫をお伝えします。今回お話を聞きましたのは、マンションにお住まいの後藤さん。内窓（二重窓）を導入し、快適な冬を過ごせるようになったといいます。

### 寒さ対策と省エネの両立を目指して

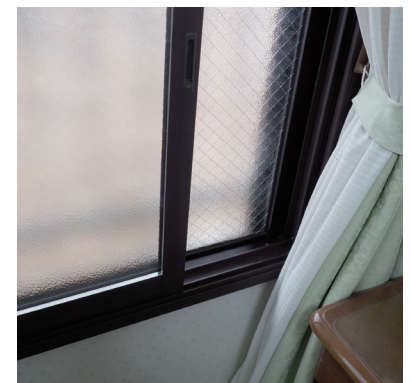
後藤さんはマンション在住。特に北側の部屋は「冬は寒くて、寝る前から暖房をつけておかないと寝られませんでした」と振り返ります。また、勉強をする際も「暖房をつけておかないと寒くて集中できない」ほどだったといいます。電気代の高騰が続いていることもあり、寒さ対策と電気代削減の両立に悩んでいたそうです。

内窓導入のきっかけとなったのは、知人の紹介でした。「内窓を導入したお宅にお邪魔したとき、本当に暖かくて驚きました」と語る後藤さん。その体験から内窓への関心を持ち始めました。知人から紹介された業者の施工例を見学し、改めて断熱の効果を実感。補助金制度も後押しとなり、導入を決断されました。

### エアコンのみで快適、 ガスストーブは不要に

内窓導入前は、冬場はエアコンを24度に設定し、それに加えてガスストーブを使用していました。ですが、導入後は「エアコン1台で設定でもとても快適。ガスストーブはほとんど使わなくなりました」と大きな変化を実感しています。

さらに、日中はエアコンをほとんど使わないので、「日が差す時間帯は、暖房なしで過



ごせませす」と教えていただきました。以前は就寝中に暖房が効きすぎてしまい、朝起きると汗をかいていることもしばしばあったそうですが、「今はエアコンの温度設定がちょうどよく感じられて、健康にもいい気がします」と快適さを語ります。

### 外の音も室内の音も 気にならない静けさ

温度面での効果に加え、遮音効果にも驚いたそうです。「マンションの立地上、車の音などが気になっていましたが、まったく音がしなくなりました」と話します。さらに想定外だったのは、外の音だけでなく室内の音も遮断されたこと。夜中にご主人が隣の部屋で仕事をしているも、音が聞こえず快適に眠ることができるようになったといいます。

ただし、「外の音が聞こえなくなることに、防犯面で少し不安もありました」とも振り返ります。慣れない静けさに最初はソワソワしたそうですが、「今は快適さの方が勝っています」と後悔はないと笑顔で話してくださいました。

### 工事は2時間半、 お部屋の片付けもほぼ不要

工事自体は想像以上に簡単だったそうです。「窓の寸法を測りに来てもらったのち、職人さんが1時間半ほどでささっと取り付けてく

れました」と驚きの早さでした。設置にあたって、部屋の家具をどかさず片付けが必要なのではないかと心配していたそうですが、「ほとんど何もしなくてよかったです」とのこと。テレビもそのまま、窓際の空間を少し空けるだけで工事ができたそうです。「カーテンを一旦取って、すぐに取り付けてもらって、本当にスムーズでした」と工事の手軽さを強調します。

### マンション内でも広がる取り組み

後藤さんが暮らすマンションでは、すでにほかの階の住民も内窓を導入しており、徐々に広がりを見せています。後藤さんも知人に勧めているそうですが、初期費用がハードルになっている方が多いといいます。それでも「長い目で見れば、電気代が浮いた分で元が取れると思います」と、経済面でのメリットから内窓導入を後押ししているそうです。

寒さに悩んでいたマンション生活が、内窓一つでも快適に。「皆さんにおすすめる」という言葉からは、確かな満足感が伝わってきました。快適さと省エネの両立、そして補助金を活用した住環境改善のヒントが詰まった後藤さんのお宅でした。



後藤 敏子 さん

岡崎市ゼロカーボンシティ推進課からのお知らせ

# 太陽光パネル・蓄電池・HEMSで始める、賢く快適な暮らし

こんにちは！岡崎市ゼロカーボンシティ推進課です。

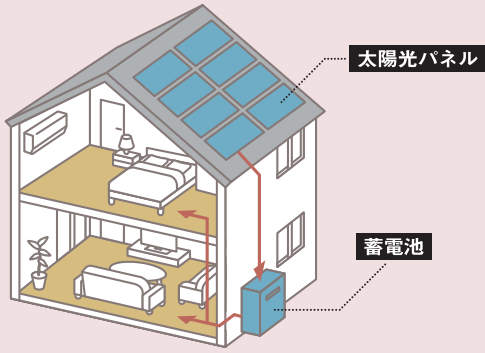
今回は家庭で導入が進む太陽光パネル・蓄電池・HEMS(ホームエネルギーマネジメントシステム)について、その特徴やメリットをわかりやすくご紹介いたします。特に暮らしの安心と快適さを大きく高める存在として、近年注目されている「蓄電池」と「HEMS」の魅力に焦点を当ててご紹介いたします。

## 「つくる」から

## 「賢く使い切る」時代へ

これまで太陽光発電といえば、余った電気を電力会社に買い取ってもらう「売電」が主流でした。しかし、再生可能エネルギーの普及が大きく進み、現在は発電した電気を売るよりも、自分たちで使う自家消費の方が、経済的にも環境的にもメリットが大きい時代です。

そこで重要になるのが、電気を貯める蓄電池と、エネルギーを管理する「HEMS」です。



**蓄電池** 電気をためて、必要なときに使う

蓄電池は、太陽光で発電した電気や夜間の安い電力をためておける「電気の貯金箱」とも言える設備です。

蓄電池の主なメリット  
電気代のさらなる削減

太陽光発電だけでは、日中以外の時間は電力会社から電気を買うしかありません。しかし、蓄電池があれば、太陽光で発電して余った電気を蓄電池に貯め、電気代が高い夕方から夜間に使用することで、電力会社から購入する電気を減らして、電気代を削減することもできます。

## 停電時の強い味方

近年、台風や地震などの自然災害が増加しています。蓄電池があれば、停電時でも照明、冷蔵庫、スマートフォンの充電など、最低限の生活を維持できます。容量にもよりますが、一般的な家庭用蓄電池であれば数時間から1日程度の電力を賄うことができます。

## HEMS 家中のエネルギーを見える化して賢く管理

HEMSは、家庭内の電気の使用状況を見える化し、電気の利用を最適化してくれるシステムです。

## HEMSの主なメリット 電気の使い方がひと目でわかる

スマホやタブレットで「今、どの部屋でどの家電がどれだけ電気を使っているか」がリアルタイムでわかります。この見える化により、無駄な電力消費に気づき、意識しなくても自然と省エネ行動が身につきます。実際に、HEMSを導入家庭では約10%の節電効果があるとも言われています。

## 蓄電池や太陽光と連携して自動制御

太陽光発電の発電量、蓄電池の充電状況、家庭での電力消費を総合的に判断し、効率的なエネルギー利用を自動で行います。例えば、天気予報から翌日の天候を予測し、蓄電池で充電する量を調整するなど、頼れる「コンシエルジュ」のような存在です。

## 快適さと省エネの両立

エアコン、エコキュート(給湯器)、洗濯機などの家電をエアコンと連携させることで、太陽光発電の余剰電力が多い時間帯に自動で稼働させるといった制御が可能になります。例えば、晴れた日の昼間に自家発電した電気でお湯を沸かすなど、電気の効率的な運用により、快適さを損なうことなく省エネを実現できます。

## 電気自動車(EV)との連携

最近では、太陽光で発電した電気を蓄電池だけでなくEVにも充電する家庭が増えています。HEMSが充電のタイミングを調整することで、より効率的に電気を活用することができ、将来的なライフスタイルの変化にも柔軟に対応できます。

## 暮らしをもっとスマートに

太陽光パネルで「つくり」、蓄電池で「ため」、HEMSで「かしく使う」。この3つの設備を組み合わせることで、電気代削減や災害対策という目に見えるメリットだけでなく、CO2削減を通じて未来の環境を守るといった大きな意義にもつながります。

岡崎市では、ゼロカーボンシティの実現に向け、再エネ設備の普及や省エネの取り組みを支援するための補助金を準備しております。初期投資のハードルが下がっている今こそ導入を検討する絶好のタイミングです。この機会にぜひご検討ください。

## まちなかニューtral

### 地元産ヒノキ無節材で、子どもが落ち着く木の温もり空間

ここでは、まちなかにあるちよつと環境を考えた身近な取り組みをご紹介します。今回は、連尺通で乳幼児の託児を中心におこなう「みんなのおうち連尺」。

みんなのおうち連尺は、子どもたちと共に暮らし、共に育むをテーマに、月ぎめや一時利用の託児、小学生のアフタースクール、親のワークスペースなど、子育て世代を支える複合施設です。実家であるビニール会社の2階加工場をリノベーションし、2020年2月にオープンしました。

代表の小松さんは、福島の自然豊かな環境で子育てした経験から、鉄筋コンクリートだった室内に自然を取り込みたいと考え、床や壁などに市内額田地域産のヒノキ無節材「リタウッド」を採用しました。リタウッドは、額田地区で林業を営む「奏林舎」が地域の森林資源を活かし商品化した高品質なヒノキ材です。公平な取引を心がける小松さんにとって、適正価格で購入できることも決め手となったそうです。木材を使用した室内では、木の衝撃吸収性により子どもが転んでも安全で、落ち着いて過剰な感覚を感じずすみます。またヒノキの香りは、保護者の安心感にもつながっています。山主が50年かけて育てたこの節がない木材について、山主自身が「嫁に出すような気分」と喜んだ思いとともに、地域の森を守る循環を生み出しています。



ニュートラル  
ニュース  
とは

地域情報紙「ニュートラルニュース」は、QURUWA 7町エリア(亀井・籠田・連尺・東康生・南康生・唐沢・伝馬一丁目)で暮らす人や働く人たちの「今より一歩、心地よい暮らし」についてお届けします。そして、実はそれが環境にやさしい取り組みで、その輪を地域に少しずつ広げることを目指します。

バックナンバーはこちら!



発行元 ニュートラルニュース実行委員会  
岡崎市ゼロカーボンシティ推進課  
発行月 2026年1月  
印刷 合資会社永田印刷所  
企画・編集 Micro Hotel ANGLE (合同会社シテン)  
ライティング Micro Hotel ANGLE (合同会社シテン)  
デザイン 岡田偉大 (ケルン)